

# サメ，イルカによる漁業被害軽減対策への取組

熊毛支庁 林務水産課

## 【背景・目的】

熊毛地区の主要漁業種類である瀬物一本釣り漁業を中心として，サメによる漁業被害が深刻化している。このため，被害軽減のために既に漁業者が実施しているサメ駆除作業の持続的実施を確保する観点から，電気ショック機器等による漁獲作業の効率性・安全性確保について実証化を図るとともに，前年度に引き続き，駆除サメの有効活用方策の検討を行った。

また，イルカによる漁業被害について現地研修会を開催し，被害対策の一助とした。

## 【普及の内容・特徴】

- 1 電気ショック機器等による漁獲作業の効率性・安全性確保の実証化  
県単補助事業の創設により，管内3漁協（4ヶ所）に，マグロ等で使用される電気ショック機器4基を整備し，各漁協での試験操業を通して，機器の有効性の確認と，更なる改良・普及を目的とした技術実証化に努めた。
- 2 駆除サメの有効利用に関する検討  
駆除したサメを用いて試験的に製造したサメすり身を，県蒲鉾協同組合を通して組合員（企業）に提供し，実際に使用したうえでの評価等を依頼した。  
また，サメ肉のすり身以外への有効利用として，ペット用の“おやつ”としてサメジャーキー製造に関する検討会等を開催するとともに，試験製造を実施した。  
更に，サメの付加価値向上を図るため，鹿児島大学と連携し，サメ肉に含まれる機能性成分（機能性ペプチド）の検証を試みた。
- 3 イルカによる漁業被害対策の推進  
（独）水産総合研究センター遠洋水産研究所の協力を得て，地元漁業者に対する現地研修会を開催し，今後の被害対策を模索した。

## 【成果・活用】

- 1 電気ショック機器等による漁獲作業の効率性・安全性確保の実証化  
マグロ等大型魚類用に市販される電気ショック機器の電極部（リング状）を鉸状に改良し，各漁協で試験操業を実施した結果，電気ショック機器自体の効果（出力等）はいずれの場合でも顕著に認められ，「150kgを超える大きさのサメに対しても一撃で仮死状態に至らしめることができた。」との評価も得られた。  
一方，電極部分をリング状と鉸状の双方で試験操業した例では，リング電極の場合，しっかりと魚体に接触させないと効果が薄いこと，鉸状電極への改良では，硬い皮に突き刺した場合，鉸を抜くのに手間を要するため，次の電撃に際し時間を要すること，等の知見も得られた。
- 2 駆除サメの有効利用に関する検討
  - (1) すり身への利用に関する検討結果  
サメ駆除により得られたサメ肉を用いて約20kgのすり身を製造し，5kgずつ梱包した冷凍すり身を県蒲鉾協同組合員に提供し評価を依頼した。  
結果，1組合員から具体的な換価評価が得られたが，その価格は100～150円/kgとかなり低い評価となった。また，併せて調査したフィレー肉の換価評価についても100円/kg程度との回答であった。  
サメすり身製造に際し，スジを除去しなかったことがすり身の評価を大きく下げているとの指摘があったため，サメ肉の適正な評価のためにはスジを除去したすり身での再評価を検討すると共に，フィレーでの提供を前提とした現地作業体制の構築とコスト把握に努める必要があると考えられた。

(2) ペット用ジャーキーへの利用に関する検討

ペット用商材を扱う企業を招聘し，管内の市町，漁協担当者，漁業者との情報交換会を開催した結果，サメジャーキーとして4,000円～5,000円/kg程度の取引が期待できた他，ペット用商材として未利用資源を活用した商品素材（サメに限らず）の提案があれば，企業とのマッチングにより販売展開できる可能性が高いことが示唆された。

また，サメフィレー肉を用いてジャーキーの製造試験を実施した結果，均質なジャーキーを製造するためには冷凍肉のスライサー等の機器整備が必要不可欠であることが判明し，離島漁業再生支援交付金等の活用による機器整備等の促進が必要であると考えられた。

3 イルカによる漁業被害対策の推進

（独）水産総合研究センター遠洋水産研究所鯨類生態研究室の岩崎室長を講師として「イルカによる漁業被害対策の現状と課題」と題して研修会を開催した結果，管内から50名以上の参加者があり，関心の高さが伺われた。県では知見に乏しい鯨類について，国等との情報交換体制が構築できた他，今後の共同による試験研究について体制整備が図られた。

電気ショック機器本体及び付属機器類

